げんでんふれあい福井

GENDEN FUREAI FUKUI

1999 第4号 SUMMER

高校文化活動をたずねて

県立若狭歴史民俗資料館訪問

11年度財団助成事業決まる

高校文化活動をたずねて

15年度 全国高校総合文化祭 福井県で開催

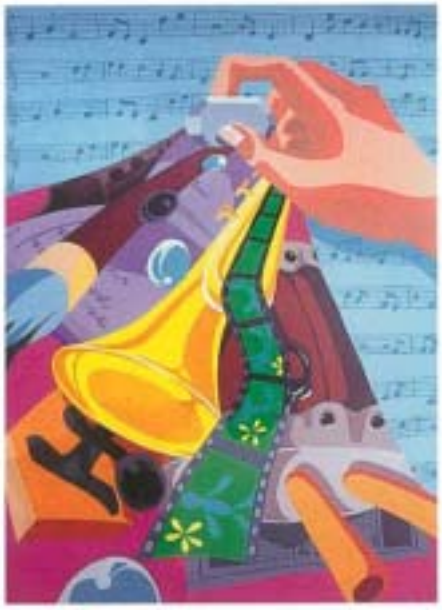
全国の高校生が文化活動の成果を発表し、友情の輪を広げる『文化のインターハイ』ともいえる第27回全国高等学校総合文化祭が平成15年度に福井県で開催されることが内定しています。

この大会を契機とし本県の高等学校における文化活動が一層の充実発展が図られ、広く県民に文化への理解と参加意識を高めようと福井県高等学校文化連盟（略称・県高文連）が主導的役割を担い、各専門部門の育成強化を進めています。また、県内の高校では、これに応えて、その開催準備にとりかかると共に芸術文化活動の充実に力を入れています。

そこで、今回は県内高校の文化活動の現状や県高文連が取り組んでいる活動やイベントをたずねてみました。

「県高文連」レベルアップに力点

福井県高等学校文化連盟は、県内の高校生の体育以外のクラブ活動や文化活動の健全な発展を図ることを目的に昭和45年5月に県内の高校生と教員をもって組織され、都道府県単位の組織としては全国で5番目に設立された団体です。



第10回県高校総合文化祭ポスター（公募で最優秀賞に選ばれた河合明日香さん（羽水高2年）の作品）

現在会員は2万8千人余りを数えています。

連盟では、合唱、吹奏楽、美術、書道など27の専門部門を設け、多方面にわたる文化活動を指導し、本県高校生の文化レベルの向上や豊かな情操を育むために大きく貢献しています。

また、昭和63年度及び平成8年度には近畿高等学校総合文化祭が本県で開催され、連盟が総力を挙げ企画運営にあたり、大会の成功に大きく寄与しました。すでに、本県では昨年度から県教育委員会に開催準備委員会事務局が設置され、連盟は全国大会に向けて今年度中に全ての専門部会を設置するとともに、部会別の講習会や研修会を開催し、各部会のレベルアップと活性化を図ることにしています。

CONTENTS

・高校文化活動をたずねて　P2
・若狭を学ぼう　県立若狭歴史民俗資料館訪問　P4
・伝統芸能シリーズ　雲浜獅子（小浜市）　P6
・11年度財団助成事業決まる　P7
・敦賀港開港100周年記念シリーズ（その3）　P8
・つるが・きらめき みなと博21　P9
・情報ファイル　P10

表紙の説明

福井県無形民俗文化財指定
福井・「馬鹿ばやし」

「馬鹿ばやし」は毎年5月24日福井市手寄1丁目の火産霊（ほむすび）神社の春季祭礼に奉納される伝統芸能です。

由来は今から約400年前天正年間に一乗朝倉家の御用商人多田善四郎が能面や狂言面を秋葉神社（火産霊神社の旧名）に寄贈し、その面をつけてお囃子を伝授したのが始まりといわれています。

馬鹿ばやしに着ける面は、べしみ、ひょっとこ、きばり、お多福など37面が現存し、中には能面として有名な逸品があります。

演技は大太鼓、笛、小太鼓、鉦ではやし、例えば、「きばり」の面を着けた役者は身を太鼓から乗り出さんばかりに豪放快活に打ち、「お多福」の場合はいかにも身重の女といった大儀そうな所作で打つなど、着けた面の特徴を現したしぐさは、観客の笑いを誘います。

11年度高校生の主な文化行事

11年度に計画されている県内高校生の主な文化行事は、別表のとおりで、多彩な発表の場が企画されています。福井県高等学校総合文化祭の総合開会式は、今年度は第10回目の記念すべき大会を迎え「見つめよう あらわそう 心に輝く感性を」テーマに掲げ7月28日大野市で、全国大会出場者の壮行会を兼ね、充実した式典や舞台発表が行われます。

今年の第23回全国高校総合文化祭（7月30日～8月3日）は、山形県で、第19回近畿高校総合文化祭（11月6日～11月14日）は徳島県内で開催されることになっており、各部門では参加・出品に意欲を燃やしています。また、県内で開催される音楽フェスティバル、美術展、演劇祭などに参加するために、各校では各種行事での発表に向けて、熱心な活動が続けられています。

合唱部門

吹奏楽部門

マーチング部門

美術展

部活動をたずねて

高校の文化活動がどのように行なわれているのか、5月下旬、武生高校をたずねました。

放課後4時過ぎ、音楽室ではオーケストラ部の生徒達が楽器の奏法や弓使いなどを熱心に練習していました。別棟のクラブ室では、吹奏楽部員が担当教師の指導で、近く行なわれる定期演奏会に備え、合奏練習に励んでいました。

生徒の代表の方に「全国福井大会の周知度」「日頃の練習は」「部活への意欲」などをアンケートしました。その結果、15年度の全国大会については「全員知っている。しかし、私達が参加できないのは残念だが後輩がきっと素晴らしい成果をあげてくれるものと信じています。」日頃の文化活動については「練習はきびしいが、高校時代を無意味に過ごすよりも自分の趣味を生かせるし、仲間とのふれあいが深まり楽しさもあります。将来に向け希望がもてて大いに役立つと思います。」と答えてくれました。

財団育成事業を支援

当財団では11年度より県内高校の文化活動の振興と育成を図るため、県高校総合文化祭総合開会式や音楽フェスティバル、芸術祭、演劇祭等の開催に協賛し、高文連に対し助成・支援を行うことにしています。

全国高校総合文化祭に向けて

福井県高等学校文化連盟会長　福岡俊孝

平成15年度本県で開催される全国高等学校総合文化祭は、日頃の高校生芸術文化活動を全国的な規模で発表する場を提供し、創造的な人間育成と生徒相互の交流を図ろうとするものです。この文化祭には、本県の参加生徒も含めて全国各地から約2万名の高校生が参加する予定です。

本県では、昨年度から開催準備委員会を設置し、その準備に当たっていますが、本連盟に未設置となっている部会の新設を急ぎ、今年度中に全ての専門部会を設置する予定をしております。

又、全国大会に向けて段階的に県高校総合文化祭の規模を拡大すると共に内容の充実を目指し、部会別の講習会、研修会を開催し、各部会のレベルアップと活性化を図るよう計画をしています。

本文化祭開催を本県高校生文化活動の振興、活性化を図る好機と捉えて、参加した高校生が多くの感動を体験できる福井県らしい大会にしたいと考えています。

吹奏楽の練習風景（武生高にて）

全国大会本県勢の顕著な実績

第20回大会（北海道大会）	囲碁部門	男子個人戦	優勝
			鯖江高生徒
第21回大会（奈良大会）	囲碁部門	男子個人戦	3位
	小倉百人一首かるた部門		優勝
			福井県チーム
第22回大会（長崎大会）	囲碁部門	男子個人戦	優勝
	将棋部門	女子個人戦	3位
	放送部門（アナウンス部）		激励賞
			鯖江高生徒
			高志高生徒
			羽水高生徒

行事名	開催期日	開催会場
総合開会式	7月28日	大野市文化会館
高校演劇祭	8月24日～27日	武生市文化センター
小倉百人一首かるた大会	9月26日	三国町社会福祉センター
将棋新人大会	10月23日	福井新聞社
音楽フェスティバル（合唱・器楽・吹奏楽・マーチング・ダンス・和太鼓・琴・三味線）	11月5日	県立音楽堂
美術・書道・写真・新聞展	11月11～14日	県立美術館
アナウンス・番組制作講習会	11月12日	鯖江市文化の館
校季囲碁大会	11月23日	福井県民会館

若狭を学ぼう

県立若狭歴史民俗資料館訪問

若狭の美しい自然、古い歴史、豊かな伝統行事や文化遺産をこの目で確かめられる学習の場　福井県立若狭歴史民俗資料館を訪ねてみました。

同資料館は、福井県が誕生した置県百年の記念事業の一環として若狭地域に根ざした文化施設として昭和57年（1982）に開設されました。

その後、開館10年を機に常設展示の改装を行い内容の充実が図られています。

また、今年は10月19日から11月21日まで「若狭の古代遺跡」をテーマに特別展も計画されています。あなたも一度見学してみませんか。

常設展示

若狭のあゆみ・くらし・みほとけの3構成

常設展示室は、若狭の歴史を展示する「若狭のあゆみ」、民俗関係を集めた「若狭の四季とくらし」、美術工芸を中心とした「若狭のみほとけ」の3つのテーマで構成されています。

若狭のあゆみ

先ず、「縄文人のくらし」で鳥浜貝塚を取り上げ縄文人が使った土器、縄、編み物、衣服、装身具、道具などを陳列、解説しています。

「若狭湾岸の弥生時代」「古墳時代の若狭」では、遺跡や遺構などの様子を展示、若狭の前方後円墳、須恵器の生産、塩づくりなどを解説しています。「律令制と若狭の古代」では御食国若狭と木簡の関係や、若狭の国府と古代寺院の推定図や大興寺廃寺の丸瓦（復元）などを展示しています。

「中世の開幕と若狭」では、若狭武田氏の文化や戦国時代の若狭を説明する一方、「近世の若狭」では、関ヶ原合戦の戦功で若狭に入国した京極家をめぐる常高院（京極高次室、名は初・姉は淀殿）肖像画や古文書などを展示、小浜藩と酒井家の足跡を肖像画や絵図で紹介しています。

また、若狭と京都を結ぶサバ街道や熊川宿、江戸中期から明治時代にかけての北前航路に関する資料を掲示し、現代に継承された歴史の重みを特徴づけています。

若狭の国名由来

「若狭」という国名は、悲々しくて、誰からも好まれるすばらしい言葉ですが、その語源について多くの説があります。

若狭に生れた江戸時代後期の国学者伴信友は、『日本書紀』の履仲天皇の巻に、「若狭国造の祖臣余磯が天皇に御酒を献じたとき、冬の11月6日であるというのに、どこからともなく桜の花びらが舞い落ちて、天皇の盃の中に浮かんだ。天皇は、これを喜ばれ、余磯に稚桜部臣という名を賜った。」とあることをもとに、この「稚桜」から「和加佐（若狭）」となったのであろう、という美しい説を述べています。

常高院肖像画（複製）

平城宮出土木簡（複製）

大興寺廃寺瓦（復元）

漆塗櫛

丸木舟

若狭の四季とくらし

年始めの行事

正月には若狭でも、年中行事の中で最も重要な行事が多く行われてきました。年神さまへの家庭内の正月飾りや各地で行われる弓射式の行事、戸祝い、ハリゴマ（春駒の変化といわれる）の行事に使われる小道具などが展示されています。

農耕儀礼

若狭各地の農家で行われる「ツクリゾメ」という農耕初めの儀礼的行事や田植え初めの「サビラキ」田植えが完了したときの「サナブリ」の供物、田の神祭の風習などを解説しています。

夏の行事

八月のお盆に若狭の各地で行われる六斎念仏の伝統行事、精霊船送り、地蔵盆といわれる地蔵祭りや火防を祈る「松あげ」「オオガセ」の信仰行事などを紹介しています。

神社祭礼

三方郡を中心に演ぜられる今王の舞、獅子舞、田楽など神社祭礼に奉納される芸能や江戸時代から伝わる小浜祇園会、高浜七年祭りなどを模型や絵巻写真などで展示しています。

秋冬の行事

秋の収穫の季節、九月一日は月遅れの八朔（8月朔日）、若狭の所々で「八朔祭り」が行われます。11月の勤労感謝の日には、雪ながらの新嘗祭や、大飯町大島での「ニソの社」の神事。冬期に入ると山の神を祭る「山の口講」や「お火焚き」などの火祭りの諸行事を伝えています。

農・山・漁村のくらし

古い時代の米作りの様々な農具や山作業の鉈や鋸などの道具、漁業では、大がかりな網漁から少人数で行う釣り漁や見突き漁までの使われた道具を展示し、若狭の農・山・漁村の生活を振り返っています。

若狭のみほとけ

若狭は、奈良や京都と深い関りをもっています。特に仏像をはじめとする仏教美術は数も種類も豊富で、重要文化財に指定されている優品が多数残されています。

これらは、都の文化を反映して生み出され、時には直接若狭にもたらされ、大切に守り伝えられてきたもので、長年の緊密な往来を想ばせてくれます。中でも長慶院の観音菩薩坐像、円照寺の不動明王立像、瑞前の薬師如来立像など平安・鎌倉時代の仏教美術の粋を知ることができ、若狭の古寺に住まう仏の姿は若狭という地の歴史を語りかけています。

円照寺不動明王立像（複製）

工芸の美

このコーナーでは、仏の荘厳、仏具、懸仏の複製などが展示され、京都、東寺領太良庄の鋳物師が鐘を鋳造し寄進したという古文書が残されているなど中世の工芸の歴史を伝えています。

また、若狭塗の由来や技術交流の歴史をはじめ漆芸品が紹介されています。

■民俗文化の保存、伝承を図る

若狭路文化研究会発足

若狭路（嶺南地方）の歴史や民俗文化の調査、研究に造詣の深い人たちが集り、4月17日敦賀市のサンピアで若狭路文化研究会（現在会員20名）を発足させました。

同会では、研究会を重ね、若狭路の貴重で価値ある民俗資料の映像、音声、データの記録等民俗文化の伝承保存をメイン事業として計画的に取り組むことにしています。

財団でもこのメンバーに参画し、本年度の新規事業として積極的に支援していくことにしています。

同会の会長に就任した金田久璋氏に、同事業への取り組みを伺いました。

若狭路の民俗文化に想う

若狭路文化研究会会長　金田久璋

「民俗学の宝庫」と呼ばれてきた若狭の民俗も戦後の高度経済成長の影響をもろに受けて著しく衰退の道をたどってきた。さらに、今後近畿線が整備され、関西都市圏との結びつきが強くなり、都市化の余波や、高齢化、少子化社会の到来で、やがて若狭路の民俗文化は、息の根をとめてしまう。伝承文化は継承者がいなければ消滅する。日頃、危機感をつのらせていた民俗学と地域史の研究者の有志が一堂に会し、「若狭路文化研究会」を結成できたことはまことに心強い限りです。

初発の事業として、手はじめに「福井県神社明細帳」の刊行に取り組みたい。色々の論文に引用されながら、これまで未刊のままになっており、貴重な神社縁起や伝承が注目されているからです。

会の三大事業、●調査研究活動●図書出版●民俗資料の映像・音声・データの記録化に全力で取り組みたいと考えています。

シリーズ ふくいの伝統芸能

福井県指定無形民俗文化財

雲浜獅子（小浜市）

雲浜獅子は、毎年5月2・3日小浜市城内に残る小浜城址本丸跡に藩祖酒井忠勝公を祀る小浜神社の例大祭に奉納されます。

獅子の歴史と由来

雲浜獅子は、もともと武州川越（現在の埼玉県川越市）の祭礼に演技されていたものを川越城主であった酒井忠勝公が、その獅子舞の演技が武骨の中にも優雅なところがあるとして鑑賞せられ、愛好のあまり寛永11年7月（1634年）若狭国小浜城主に国替えの命があった際に演技者30余戸を召し連られて小浜に入城されたことに始まります。

このようにして小浜に移った獅子舞は「関東組」と称して城内の一部に住宅を与えられ扶持米を賜り、準士族の地位に置かれて、藩主の土産神である広峰神社の祭礼と城内の祝典以外は演舞を禁じられ、酒井家歴代の明治維新まで続けられたといわれています。

この由緒ある獅子舞も廃藩とともに関東組の人達が分散されたため一時中絶のやむなきに至りましたが、明治6年、広峰神社の祇園会に有志の者が申し合わせ、残られた旧関東組の方たちから旧雲浜村の青壮年有志が伝授を受け、旧獅子頭を用いて再興奉納したと記録に残されています。

ところが、明治8年　旧城郭に藩祖を祀る小浜神社が創建され、獅子の由来からみて縁故が深いとして広峰神社への奉納を取り止め小浜神社へ奉納するようになりました。

獅子舞の演技

雲浜獅子は他の地方の獅子舞とは異なり、人間への情事のたしなみが舞いの筋書きに仕組まれているところに、この獅子の演技の面白さがあるといわれています。

舞いは序、破、急の三段から構成されていて笛と太鼓でそれぞれ舞振りが違い、全て気合いを揃えて打囃子（うちはやし）もので筋書き通り一庭（ひとにわ）を舞うには約1時間を要します。

例祭当日には沿道各所で演技の一部を披露するほか3日の午後3時には小浜神社に宮入りし、最初に子供獅子が演技の一部を舞い、続いて大人獅子が一庭を神社に奉納して神霊をお慰めすることを恒例としています。

後継者育成に力

古い伝統と歴史の中に育まれてきた雲浜獅子は、昭和32年3月、福井県の無形民俗文化財に指定されています。地元では、この貴重な郷土芸能を長く大切に保存し、後世に継承するため、旧来の保存育成の方法を組織化し、指導部（舞方、笛方、囃方など）と催事部を設け、保存と後継者の育成に力を入れています。

県内外の広域交流行事に参加

雲浜獅子は、古く大正、昭和と県外の大イベントに出演しており、無形文化財に指定後は、昭和45年大阪で開かれた万国博や全国郷土民芸大会など数多くの催しに出演、昭和62年には文部大臣表彰を受賞しました。また、平成5年10月には、初の外国公演でニューヨークに出張するなど国内外の広域交流の公演を行ない、広く郷土芸能の誇りと栄光を示す観光開発やまちづくりに大きな役割を果たしています。

雲浜獅子のストーリー

雲浜獅子は、2頭の雄獅子と1頭の雌獅子で踊ります。
2頭の雄獅子は、若い獅子と年老いた獅子がいます。
踊りはまず、年老いた獅子が雌獅子に恋をして近寄ります。
その間若い雄獅子は、遠くより2頭の動きを見ていますがやがて、自分も雌獅子に近寄ります。
そうすると年老いた獅子が若獅子の動きのじゃまをします。
そこで、2頭の雄獅子の戦いがはじまります。
最初は、老い獅子が優勢ですが、寄る年波には勝てず、一息つかざるを得ません。
その間、若獅子は、我が意を得たとばかり、雌獅子に熱い寄ります。しかし一息ついた老い獅子は、再び若獅子と雌獅子の間に入って戦いを続けます。
こうした状況の中で雌獅子が、自分の責任を感じて2頭の雄獅子の間に入って世の中の無道を諭し、和解をした後仲良く3頭で踊り、終わります。

11年度応募・財団助成金決定

県内100団体　2,131万円

大別	事業名	団体数	助成金
地域文化の創造事業	郷土の歴史・文化保存伝承事業	26	536万円
	市民文化団体等活動事業	21	381万円
	国際文化交流事業	4	118万円
	文化のまちづくり活動事業	8	205万円
	文化アドバイザー派遣事業	2	134万円
ゆたかなふれあい創造事業	ボランティア団体活動事業	10	100万円
	各種文化サークル活動事業	13	130万円
	環境保全等地域づくり事業	1	10万円
提供文化創造事業 芸術振興事業	芸術公演開催事業	2	100万円
	市民参加型芸術文化活動事業	11	237万円
	新人芸術家の創作発表活動事業	1	30万円
県内高等学校総合文化祭等育成支援事業		1	150万円
合計		100	2,131万円

財団では、平成11年度助成事業について本年3月から4月末にかけて財団助成事業取扱要綱および11年度応募要領に従って県内文化団体等に募集を行ってきました。

その応募の申請を4月30日をもって締め切り、4月6日と6月1日の2回にわけ、審査会および選考委員会を開催し、審議の結果、県内100団体に対し助成金2,131万円を交付することを決定しました。

その内訳は、推薦制によるもの38団体1,196万円、公募方式によるもの62団体935万円となっています。

今回の決定の中には、本年度新規事業として県内高等学校総合文化祭などの育成支援事業（150万円）が含まれておりますが、これを除いた助成金は1,981万円で、昨年度に比し22団体、389万円の増となりました。

事業別にみた助成団体数と助成金の内訳は左表のとおりです。

第10回越まほろば物語大祭（丸岡町）
（財団助成事業として支援しました。）

平成10年度本県で開催された中部合唱コンクール
（財団も協賛し、県合唱連盟に助成支援を行いました。）

ボランティア活動紹介

ボランティア朗読友の会「音の本」づくり22年

ボランティア朗読友の会（会長土肥淑子）は、福井市中央公民館主催による朗読講習会を終了した人達の自主グループで昭和52年4月に発足しました。会員は現在22名。目の不自由な人のために点字図書館や県立図書館などから依頼された文芸書などの音訳テープの製作活動に主力をおいています。

音訳作業は、本に書かれた文章、図表などを忠実に読みあげて録音する地味で辛抱強く自らの教養と学習を必要とする作業です。そのためにも、毎月専門講師を招き、勉強会を開いて技術の向上と会員の親睦を深めています。土肥さんは、「朗読奉仕は書いてあることを正確に聞き手に伝えることが大切。またボランティアは無理せず気負わず、楽しみながら。これが長続きの秘けつでは」と話していました。

県立図書館で「文芸春秋」のダヴィングと発送作業する会員

敦賀港開港百周年記念シリーズ（その3）

繁栄と苦難と発展の敦賀港

鞠山新港

第2期工事完成直前の敦賀港

満蒙開拓青少年義勇軍の輸送基地となった敦賀港

フェリー就航

第1期築港工事で現在の金ヶ崎岸壁の位置に、桟橋ができて連絡船が2隻同時接岸が可能となり、桟橋に沿って税関旅具検査場・金ヶ崎駅・大阪商船・ロシア義勇艦隊事務所等洒落た建物が軒を連ねました。

工事が竣工して間もなく第1次世界大戦が勃発し、大正5年には敦賀港の外国貿易額は56百万円で全国第5位、ウラジオ貿易では日本一を記録し、北鮮航路開拓のため大和田翁の計画した鮮牛の移入も順調に伸び始め、加えてシベリア出兵の基地港となったため、港湾能力の限界を超える取扱量となりました。こうした事態の早晩到来を予測していた大和田翁は、第1期工事に引き続き第2期工事施工を政府に要望し、多額の私費を投じて猛運動を展開、大正11年に起工し昭和7年3月に竣工しました。丁度満州国が建国された年で、重要国策港として大陸交通の要として、要人の往来は引きも切らず船客も貨物も増大の一途をたどりました。

従前から敦賀港はわが国大陸政策と歩調を一にして盛衰を重ねてきましたが開来一層明確となり、満蒙開拓の輸送基地として、また大陸との物流拠点として、さらには欧亜を結ぶ東洋の波止場として大きく飛躍してきました。ところが第2次世界大戦では軍需基地港化し、大戦末期半島い戦火にさらされ焼土と化しました。この間にもナチの魔手から逃れてきた4千のユダヤ難民寄入港となったこともあり、また本土決戦のため移駐する関東軍大部隊の輸送には夢ナ倉出出の働きをしました。

戦後は交流と貿易の窓口も閉ざされてしまい、廃港の悪夢にうなされることもありました。市民の努力と政府の支援は港をドン底から立ち上がらせ、次々と港湾整備を進めて、遂に鞠山に近代的大型新港を出現させました。この仕上げは水深15メートルの多目的外貿埠頭建設で、着々と進行中で完成すれば1500万トンの貨物を扱えます。港は現在、10万人の旅客と1千万トンの貨物を取扱っていますが、海上コンテナを中心にぐんぐん増加しており、さらに新規貨物の敦賀港利用が次々と計画されているので早急な完成が待たれています。現在フェリー1航路、コンテナ3航路の定期船が出入りしていますが、近いうちさらに増便が予定されています。

これからの課題としては環日本海圏の拠点港として不動の地位を築くため、客貨に爽快・安全・低廉・親切な港湾サービスを提供するとともに、海陸の結節点として他に比類のない優れた取扱システムを構築することにあると思います。

（終わり）

（文・日本海地誌調査研究会　井上楠）

第3号のロシア領事館の写真は、初代川崎町にあったものの誤りでした。

つるが・きらめきみなと博21

開港100周年祝い 多彩なイベント

7月18日(日)～8月16日(月)

県・敦賀市・関係団体などで構成されている敦賀港開港100周年記念事業実行委員会が主催して7月18日から8月16日まで、「つるが・きらめきみなと博21」が開催されます。

本誌でも創刊号から本号にかけて敦賀港記念シリーズを掲載してきましたが、敦賀港の未来の姿をアピールするため金ヶ崎緑地をメインに盛り沢山なメニューと多彩なイベントが繰り広げられます。

財団主催の音楽イベント

◇「愉快なドイツ音楽への誘い」 ―ブラス・フォーゼ・in敦賀―◇

財団では、みなと博を盛り上げるため、ドイツ音楽を中心に各地で演奏活動を続けているブラス・フオーゼを招き「愉快なドイツ音楽への誘い」演奏会を開きます。

本場ドイツ音楽を鑑賞するだけでなく、市民グループのハンドベル演奏も参加して一緒に歌い、踊って、国際友好の輪を広げるイベントを企画しました。是非お出ください。

開催日　8月4日(水)・5日(木)　午後6時半から
会　場　きらめきステージ

◇由紀さおり・安田祥子童謡コンサート◇

開催日　7月26日(月)　午後6時半から
会　場　敦賀市民文化センター

みなと博記念事業の一環として「歌・うた・唄」をテーマにげんでんふれあいコンサートを開催します。（コンサートには前売りのチケットが必要です。）

第4回「若狭を謳う」

県立大・小浜キャンパス等で開催

4/17

小浜市が生んだ歌人山川登美子にスポットをあてた「若狭を謳う」総合文化イベントが4月17日　県立大学小浜キャンパス等で開かれました。この催しものは、若狭小浜の伝統ある文化を継承しようと、これに賛同する人々のネットワーク　「若狭を謳う」実行委員会（会長　上原徳治）が主催したもの。

今年は「佐渡文楽」を招き、「太平記誉れの仇討壇風の段」を上演。また、登美子の出身校大阪梅花大学合唱部も参加して「登美子の歌」などを披露したほか、マリオネット、しの笛、フルート演奏会、短歌・俳句大会などを開催。若狭地方の多彩で、質の高い芸術文化イベントを特色づけていました。

①大阪梅花大学合唱部による
コーラス演奏会

②佐渡文楽の公演

第20回萌展　福井県民会館で開催

4/16~19

第20回萌展（日本画）が4月16日から19日の4日間　福井県民会館ギャラリーで、会員作品41点を展示して開かれました。

萌の会は昭和55年　福井市中央公民館主催の講座を受講した自主グループで結成され、以来毎月2・3回創作研究会をもつなど創作技術の向上につとめています。本年は創立20周年に当り「記念画集」を発刊。市民文化活動の輪を広めています。

'99シルバー福井展　県立美術館で開催

4/15~18

県内在住の60歳以上の人を対象とした募集作品の総合美術展「'99シルバー福井展」が福井県美術協会の主催で、4月15日から18日まで県立美術館で開かれました。

同展には、日本画、水墨画、洋画、書道、写真、工芸の6部門、応募の作品から選ばれた入賞作品77点が展示されました。

会場に訪れた人は、本年度は「ねんりんピック'99福井」が開催されることもあり、シルバーパワーを発揮した力作に見入っていました。

「ブルーメンコアー」結成15周年演奏会

4/9

ブルーメンコアー結成15周年を記念したコンサートが4月9日　敦賀市民文化センターで開かれました。ア・カペラの魅力、海の歌など4部構成で、ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの混成で美しく、楽しいコーラスを披露。

集った200人の聴衆の拍手を浴びていました。このサークルは、敦賀市粟野公民館の婦人生涯学習サークルとして結成され、県婦人合唱連盟にも加盟。県内外の合唱祭にも参加し、地域に密着した文化活動を展開しています。

すみれ会ピアノコンサート　敦賀市民文化センター

6/25

6月25日　すみれ会（代表沢崎恵子）主催のダニエル・シュルマン&沢崎恵子ピアノデュオコンサートが敦賀市民文化センターで開演されました。

アメリカのピアニストで指揮者でもあるダニエル・シュルマンさんと沢崎さんのピアノ連弾によるドビュッシー、モーツアルトなど　クラシック演奏の美しい響きに集まった約500名の聴衆を魅了しました。

すみれ会は昭和51年に発足。ピアノ教室や毎年ファミリーコンサートを開催するなど地域の音楽文化の普及、向上に地道な活動を続けています。

日本合唱界第一人者らを招き 全国コーラスワークショップ

5/2~4

5月2・3・4日の3日間、福井市の県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）で第10回コーラスワークショップ・イン・ふくい（全日本合唱連盟など主催）が開かれました。

このワークショップは、日本を代表する作曲家、合唱指導者らを講師に迎え、合唱技術の向上を目的に毎年開かれ、本県での開催は初めて。「ハーブのふるさと福井で21世紀に向けてこれからの合唱を考える」をテーマに、ハーブ伴奏の合唱曲講座やコンクール課題曲講座など4講座を開設。3日間のセミナーには、全国から合唱指導者や愛好者等2100余名が参加しました。

4日の最終日には、セミナーを終えた約400人が参加してクロージングコンサートが開かれ「大地讃頌」など8曲を大合唱し、会場は素晴らしい歌声に包まれていました。

セミナーの成果を飾る大合唱

「武生国際音楽祭 '99」 ー心の琴線に触れる声ー

6/10~19

10回目を迎えた同音楽祭は世界一流の音楽家たちが武生に集まり、6月10日から19日までの10日間、同市文化センターをメーン会場に周辺市町村、神社、レストラン、学校などで一流で、多彩な音楽イベントが開かれました。

初日は舘野泉ピアノコンサート、以降、ベルリン古楽アカデミー&C・プレガルディエンや中村功・韓伽耶（ハンカヤ）デュオリサイタル、東京少年少女合唱隊演奏会等世界各国の有名なソリストらのコンサートが次々と開かれ、最終日19日には新星日本交響楽団スペシャルコンサートを開き、市民フェスティバル合唱団らも登場「カルミナ・ブラーナ」を高らかに歌い上げフィナーレを飾りました。

「心の琴線にふれる声」をテーマに掲げた10日間の祭典は、延約1万人が参加して、音楽を通じ、市民参加による国際交流と親善の輪を広げました。

▲6/13東京少年少女合唱隊特別演奏会

◀6/14ドイツ歌曲の夕べ

美浜町「早瀬子ども歌舞伎」披露

5/5

美浜町の無形民俗文化財に指定されている「早瀬子ども歌舞伎」は、5月5日早瀬区の山王祭に奉納されました。

祭礼行事には山車を繰り出し宮前を始め、集落8ケ所を巡回、上演されました。

この歌舞伎は、150年以上前から伝わる伝統芸能で、出し物は3人1組で舞う寿式三番叟（ことのおしきさんばんそう）。

今年は美浜北小の5年生2人、4年生4人の子どもたちが地区保存会の人たちの指導をうけて見事に演じました。

今回の「情報ファイル」では、財団ニュースと11年度財団助成事業に決定した4月以降の芸術・文化イベントの1部を紹介しました。

若手ピアニスト今川さんに財団奨励金

本県出身の将来有望な若手芸術家を育成する財団奨励金制度の2人目の対象者となったピアニスト今川裕代さんに　5月13日福井財団理事長室で田尻理事長から特別奨励金支給通知書を渡しました。

今川さんは、オーストリア、ザルツブルグモーツアルテウム国立音楽大学に留学中で、ヨーロッパでの著名なピアノコンクールなどに参加しているため　その合間をみての帰国。今川さんは「財団奨励金制度に選ばれ、大変感謝しています。留学中は、コンクールに参加するなど多くの経験を積みたい。帰国後は福井の音楽界のために是非お役に立ちたいと思います。」と語っていました。

第2回

'99写真コンテスト ふるさと大賞

テーマ「ふるさとのまつり」

第1回ふるさと大賞「渚」鈴木健歳氏(敦賀市)

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
後援：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会／(社)福井県文化協議会／福井県高等学校文化連盟
福井新聞社／福井放送／福井テレビ
協賛：福井県カメラ商組合／富士写真フィルム(株)／(株)福井フジカラー

部門
学生部門(高校生以上)・一般部門・一般女性部門の3部門

資格
1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格
カラー・モノクロで四つ切り又は四つ切りワイドの単写真(学生は六つ切り可)

審査員
審査委員長：八木隆氏(写真家)

応募先
1) 〒914-0051
福井県敦賀市本町2-9-16
(財)げんでんふれあい福井財団
2) 福井県カメラ商組合加盟店
及び県内フジカラー取扱店

締切 平成11年12月15日(水)
(当日消印有効)

ふるさと大賞　1点……30万円
ふるさと賞　3点
学生10万円1点／一般20万円1点／女性20万円1点
優秀賞　6点
学生5万円2点／一般10万円2点／女性10万円2点
入選　35点　〈記念品〉
学生5点／一般20点／女性10点
佳作　35点　〈記念品〉
学生5点／一般20点／女性10点

財団イベント　INFORMATION

福祉寄席(出演落語家　未定)	平成11年10月19日(火)～21日(木)	県内6福祉施設
げんでんふれあいコンサート 東京シティフィルハーモニック管弦楽団	平成11年11月3日(水)	福井市・ハーモニーホールふくい
狂言を楽しむ会 [茂山千作(人間国宝)師一門]	平成11年11月24日(水)	敦賀市・プラザ萬象

財団ホームページ開設

アドレス　http://www.Genden.or.jp

「げんでんふれあい福井」第4号
1999年7月発行

(発行)　財団法人 げんでんふれあい福井財団
〒914-0051　福井県敦賀市本町2丁目9番地16号(日本原子力発電㈱敦賀事務所4階)
TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070